

1. 評価結果概要表

作成日 平成21年11月27日

【評価実施概要】

事業所番号	4570300709		
法人名	有限会社愛宕福祉サービス		
事業所名	グループホーム愛宕荘		
所在地	宮崎県延岡市古城町4丁目634番地3 (電話) 0982-42-2658		
評価機関名	社会福祉法人宮崎県社会福祉協議会		
所在地	宮崎県宮崎市原町2番22号		
訪問調査日	平成21年10月16日	評価確定日	平成21年11月27日

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

事業所は愛宕山のふもとの閑静な住宅街にあり、野菜や花などが敷地内に植えてあり季節を感じることができる。職員は目配り、気配り、心配りを motto に利用者を尊重し、あるがままに受け入れて寄り添うケアに努めている。職員間のチームワークを大切にし、お互いに思いやりと明るく優しい笑顔のある職場作りを心がけ利用者の介護に生かしている。地区会に加入し、地域の方との交流や、事業所の力を生かした地域貢献を行なっている。運営者の方針もあり職員は、積極的に研修を受講しケアの質の向上を図っている。

【重点項目への取組状況】

重点項目	①	前回評価での主な改善課題とその後の取組、改善状況（関連項目：外部4） 昨年課題となった項目の日常的な外出支援は、買い物時の対応について試みたが、利用者の状況により混乱を招くなど現状では難しい面がある。災害対策については、利用者とともに避難訓練を行い戸外への誘導訓練を行った。 今回の自己評価に対する取り組み状況（関連項目：外部4） 運営者、管理者、職員は評価の意義を理解し、全員で自己評価に取り組んでいる。遅番と夜勤者は参加できないが、管理長と職員で各項目について意見を出し合い、検討して自己評価に取り組んだ。参加できなかった職員も自己評価表に目を通してしている。
	②	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み（関連項目：外部4, 5, 6） 2か月に1回開催し、家族の代表が交代で参加することで、家族の思いや意見を出していただく機会になっている。会議では事業所の行事や研修報告を行い、また、会議で出された意見等をサービスの質の向上に生かしている。
重点項目	③	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映（関連項目：外部7, 8） 意見箱の設置や「荘便り」で運営者の携帯番号をお知らせし、相談できるようにしている。運営推進会議に家族代表が交代で参加し、思いや意見を出せる機会となっている。意見や苦情に対して速やかに対応ができる体制にある。
重点項目	④	日常生活における地域との連携（関連項目：外部3） 地区会に加入し地域の情報を得ている。地域の方に声かけをし、ホームの行事に参加していただいている。近所の方から季節の頂きものをしたり、差し上げたりなどで交流が深まっている。災害時の支援のお願いや協力をもらえる関係にある。事業所を開放し相談を受けたり、運営者が地域で講演や相談を受けたり、地域貢献に努めている。

【情報提供票より】（平成21年9月25日事業所記入）

（1）組織概要

開設年月日	昭和・平成14年10月1日		
ユニット数	2 ユニット	利用定員数計	18 人
職員数	14 人	常勤8人, 非常勤6人,	常勤換算6人

（2）建物概要

建物構造	鉄骨 造り		
	2階建ての	1～2	階部分

（3）利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	35,000 円	その他の経費(月額)	実費 円
敷金	有(円) (無)		
保証金の有無(入居一時金含む)	有(円) (無)	有りの場合償却の有無	有 / 無
食材料費	朝食	200 円	昼食 300 円
	夕食	300 円	おやつ 円
	または1日当たり 円		

（4）利用者の概要(平成21年9月25日現在)

利用者人数	18名	男性	2名	女性	16名
要介護1	1	要介護2	4		
要介護3	5	要介護4	5		
要介護5	3	要支援2	0		
年齢	平均 86.3歳	最低	75歳	最高	101歳

（5）協力医療機関

協力医療機関名	医療法人日高胃腸科内科医院
---------	---------------

2. 評価結果 (詳細)

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念の共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	地域密着型サービスの意義を職員全員で確認し、事業所独自の理念を作りあげている。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	管理者と職員は理念を共有し、理念の実践に向けて取り組んでいる。会議や申し送りの際に、理念の確認や意識づけがなされ、それが日々のケアに反映されている。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	地区会に加入し、地域の行事参加は利用者のレベルにより困難な面もあるが、参加できるよう努力している。ホームの行事に地域の方の参加があり、近所の方との関係は深まっている。また、中学生の体験学習の受け入れや、毎月の利用者の誕生会には幼保園の幼児の来訪がある。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	運営者、管理者、職員は、評価の意義を理解し、全員で自己評価に取り組んでいる。職員会議、勉強会で外部評価結果を検討し、具体的な改善に取り組んでいる。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議は2か月に1回開催し、ホームの現状や行事、研修等の報告を行っている。会議には家族代表が交替で参加し、思いや意見を表出する機会となっている。ホームはそこでの意見を参考に、サービス向上に取り組んでいる。		
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	市の担当者とは何かあれば相談にのってもらえる関係にあり、ともにサービスの質の向上に取り組んでいる。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	毎月「荘便り」を発行し、写真で利用者の様子を伝えたり、来訪時に近況報告をしている。「荘便り」は利用者一人ひとりの複数の家族に郵送し、ホームでの生活を家族に共有していただけるよう配慮している。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議に家族代表が交替で出席し、思いや意見を表出する機会を設けたり、ホーム便りで運営者の携帯番号を知らせ、相談を受け付けるなどの体制を取り、それらを運営に反映させている。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	開設以来、常勤職員の離職はないが、離職がある場合は、理解できる利用者へは離職のあいさつをし、不安やダメージを防ぐ配慮をしている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	運営者の方針もあり、研修には積極的に参加できるよう勤務体制にも配慮がされている。勤務しながらヘルパーや介護福祉士資格取得等へのステップアップを図っている。研修参加後は、会議で報告し、職員全員に伝達されている。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	管理者が県北グループホーム連絡協議会の理事になっており、他の職員も同業者と交流する機会がある。また、月1回、九州保健福祉大学で行なわれる認知症の勉強会にも数名の職員が参加し、そのこと等を通じサービスの質を向上させていく取り組みをしている。		
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気に徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	ホームの見学や入居申込時に、家族と本人に来訪してもらいホームの雰囲気を感じていただいたり、入居待機者に対しホームの行事への参加の声かけを行なっている。入居後も家族と相談しながら、徐々になじみながら安心して生活ができるような工夫がある。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜ぶ哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	人生の先輩として、生活の中で身についた技や知恵を利用者から教わることも多く、ともに支えあう関係を築いている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	寄り添うケアを心がけ、一人ひとりの思いや暮らしかたの希望、意向の把握に努め、希望には即、対応できる体制を築いている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	職員の発案による気づいたことや提案を書き込む気づきノートを活用し、職員会議や勉強会でケアのありかたについて話し合い、本人、家族、その他関係者の意見、要望を反映した介護計画を作成している。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	定期的に見直しを行なうとともに、気づきノートの活用、本人、家族、その他関係者と話し合いを持ち、現状に即した新たな介護計画を作成している。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	ホームでの相談や運営者が地域で講演や相談を行なう等の地域貢献、利用者の希望する買い物に即応し外出や受診に対応している。また、職員の中に5人看護師がおり、病気の早期発見や医師の指導の下、医療処置等がホーム内で対応可能である。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	週に1回嘱託医の往診がある。家族と相談しながら専門医の受診にも対応し、適切な医療が受けられるような支援体制を築いている。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	看護職が5名職員として勤務しており、重度化や終末期に向けた看護体制がある。家族や嘱託医とも話し合い、方針が共有できており、1名の看取りを経験している。夜間でも対応できる体制になっている。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	さりげない言葉遣いや対応に配慮し、一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねない対応をしている。また、記録の管理を徹底し、個人情報の保護に努めている。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	基本的な1日の流れはあるが、利用者一人ひとりの生活ペースを大切にし、寄り添うケアを提供し支援している。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	調理の準備や後片づけ等を利用者の能力を生かしながら、和やかに食事を楽しめるよう支援している。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入浴は週3回であるが、毎日清潔保持を支援している。一人ひとりの希望やタイミングに合わせた入浴を支援している。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	調理の準備や後片づけ、洗濯物干しやたたみ等の生活歴を生かした役割、歌を歌うときも利用者の自主性を尊重し、趣味や信仰にも配慮した支援を行っている。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	利用者の重度化により対応が難しい面も出てきているが、希望に沿ってできるだけ戸外に外出する機会を作っている。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	利用者の行動パターンを理解し対応しているが、不穏状態の利用者がいる場合は鍵をかけることもある。鍵をかけることの弊害もよく理解しており、鍵をかけないケアに取り組む姿勢がうかがわれた。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	災害対策マニュアルを作成し、2か月に1回避難訓練を行なっている。また、近所の方との関係作りに努め、支援をお願いできる関係にある。	○	夜間対応また、夜間想定避難訓練の実施を検討していただきたい。
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	栄養摂取や水分確保の支援を行い、職員は健康管理表に記録し、情報を共有している。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	各所に季節の花や観葉植物があり、壁には行事の写真や利用者の作品が掲示されている。食堂兼談話室は暖かな日差しが差し込み、居心地よく過ごせる空間になっている。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室にはなじみの品々が持ち込まれている。神棚や遺影を持ち込まれる方もおり、信仰にも配慮している。利用者が居心地よく過ごせるような配慮がうかがわれた。		

※  は、重点項目。